

第1 分科会

「高校教育とPTA」

発表県 埼玉県

発表校 埼玉県立杉戸高等学校

発表者 PTA会長 木村 千恵 校長 蛭間 睿

発表テーマ 「コロナ禍でも～共に目指そう 夢の実現～」

1 学校概要・沿革

本校は、昭和52年4月、男女共学の全日制普通科高等学校として、埼玉県立杉戸農業高等学校の移転跡地に開校した創立44年目の学校です。1学年は7クラス、2、3学年は8クラスずつの全23クラス、在籍生徒数は910名（男545名、女365名）です。

「一人ひとりの能力を確実に伸ばし、夢の実現を支援する学校」を目指し、進取の気概を持ち、社会に貢献できる人材を育成し、総合的な知の習



対話を取り入れた授業

得ができる人間に成長させることを目標にしています。様々な教育活動を通して、「主体性」「協調性」「発信力」「共感力」「継続力」といった5つの力を育てます。入学直後の学習オリエンテーション合宿、早朝・放課後、土曜日や長期休業中の進学補習、定期考査前の勉強マラソン等、生徒の進学希望実現に向けて学校全体で取り組み、杉高生は、勉強に部活動にフル稼働で夢の実現を目指しています。



ICTを活用した授業



「主体性」を伸ばす「体育祭」の応援合戦



全国大会出場のダンス部

2 PTA活動の概要

<組織>

会長1名 副会長18名 監事6名

専門部・・・教養文化部、広報部、生徒指導部、進路対策部、保健体育部

<主な年間の活動内容>

- ・本部…昨年度から継続してPTA活動を見直し、各支部で行っていた研修会・講演会を実施しないこととしました。また、文化祭の際、

近くのスーパーマーケットに駐車させないための駐車場警備と学校周辺も含めた清掃活動を行っています。保護者が来校する機会を有効活用して、地域貢献も図っています。関東高P連、研究協議会、東部地区バス旅行に参加し、他県他校のPTA活動について見聞を広めています。

- ・各支部…年2回の支部活動を今年度から廃止し、保護者の方の負担軽減を図っています。
- ・教養文化部…例年、文化祭でのPTAバザーを主催しています。昨年度はかなりの数のバザー提供品を会議室に並べて、7万円ほどの売り上げがありました。売上金は生徒会に寄付しています。今年度は文化祭が中止のため、バザーも実施できませんでした。
- ・広報部…年2回、広報誌発行しています。昨



昨年度の学年PTA懇談会の様子

年は、年3回発行していましたが、今年度から負担軽減に取り組み、2回としました。

- ・生徒指導部…春・秋の交通安全週間の立哨指導と文化祭の警備をしています。今年度おそろいのビブスを準備したのですが、活動できませんでした。
- ・進路対策部…PTA大学見学会及び進路講演会と併せて実施する学年懇談会の主催をしています。今年度は、GoogleMeetを活用して講演会や学年の動画上映を行いました。大学見学会は実施できませんでした。
- ・保健体育部…体育祭と長距離大会への協力をしています。長距離大会では走り終えた子ども達に飲み物を配付しています。今年度は、中止のため実施しておりません。



今年度の学年PTA懇談会の様子（Meetを活用）



東部地区バス研修旅行 長野県にて（昨年度）



おそろいのビブスでPTA活動

3 休校中に実施した保護者アンケート結果

新型コロナウイルス感染症予防のため休校中の令和2年5月1日～5月9日に保護者対象のアンケートをHP上で発信し、ネットコモンズを利用して回答を集計しました。

【回答率1年85.3%、2年71.9%、3年68.6%】

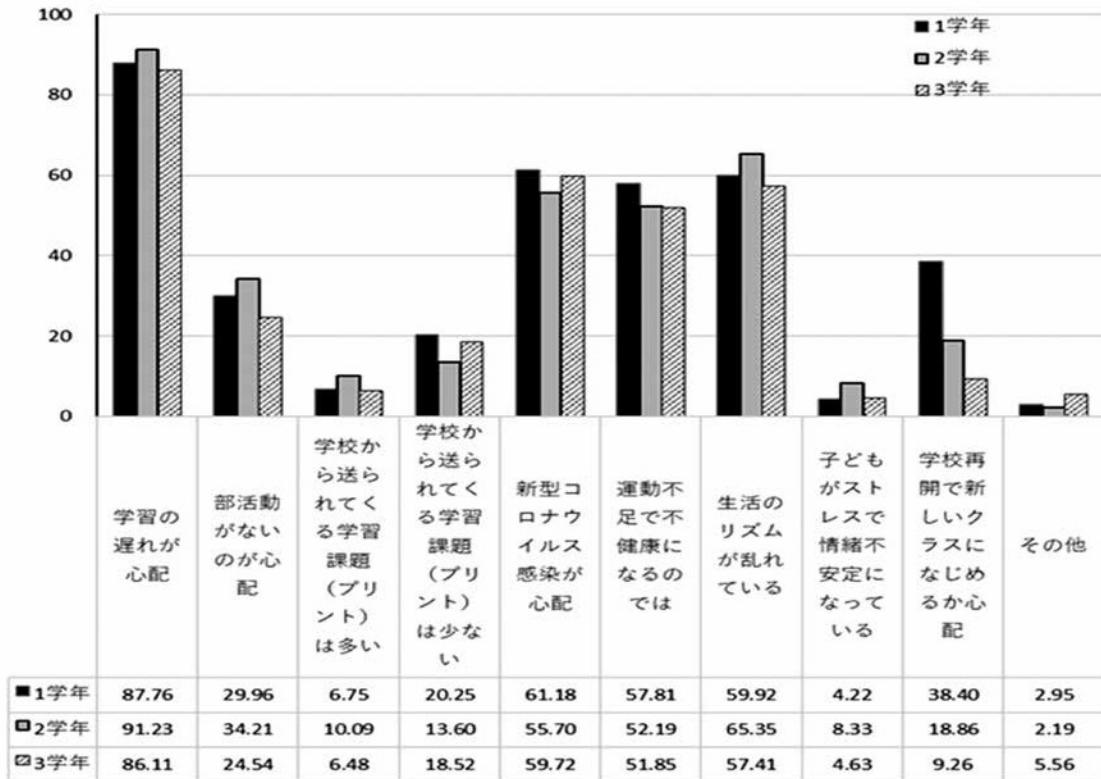
（1）保護者の思っていること

「学習の遅れが心配」との回答が88.4%。どの学年も9割近い数字。「生活のリズムが乱れている」との回答が、60.9%。「新型コロナウイルスの感染が心配」との回答が、58.9%。「運動不足で不健康になるのでは」との回答が54.0%。「部活動がないのが心配」

との回答が29.6%。「学校から送られてくる学習課題」については、「少ない」との回答が「多い」を上回った。「学校再開で新しいクラス

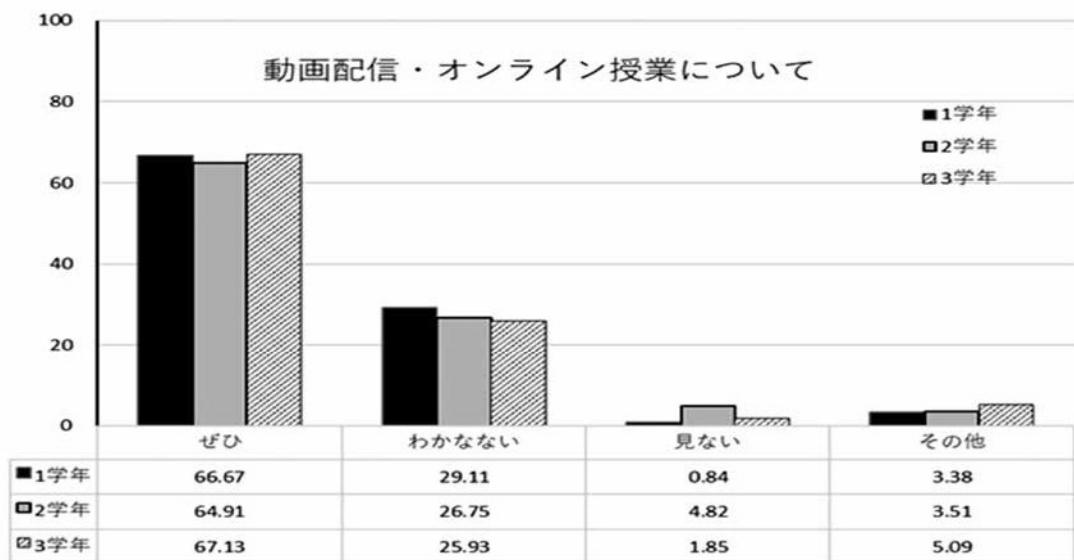
になじめるか心配」との回答は1年生の割合が最も多かった。

保護者の思っていること



(2) 動画配信・オンライン授業について
「ぜひ、行ってほしい」との回答が
66.2%。「よくわからない・どちらでもいい」

との回答が27.3%。「子供は見ない、通信料や通信環境などでやめてほしい」との回答が2.5%。



(3) 自由記述より
「このようなアンケートを待ってました!」「オンライン授業を希望します。動画配信やオンラ

インなどで、生活、学習のリズムをつけたい。」「私立高校はすでに毎日オンライン授業を行っており格差が気になる。」「勉強の遅れや進路相

談など、通年にできていたことができないので、親子共々何をどうすればいいのか心配しています。」「先の見えない緊急事態で、先生方のご苦労に大変感謝しております。子どもは学校に行きたい気持ちでいっぱいです。貴重な楽しい学校生活を1日でも多く送れるよう、親としてできる限り協力させて頂きたいと思っております。」「先生方もWebの授業に慣れていないと思われ、お互いに不具合が発生すると思われます。それでもオンライン授業実施に向けて取り組まれていることを感謝いたします。大変だと思いますが、頑張ってください。」「先生方各々の家庭の不安もある中、子どもたちへのお気遣いありがとうございます。何かできることがあればお手伝いしたいのでおっしゃっていただければと思います。」「今回の長期休業中に子どもと将来について、たくさん話し合うことができたので、私たち家族にとってはとても良い機会だったと思っております。」

(4)まとめ～学校より～

突然、家の中に閉じ込められる生活が始まり、生徒も保護者も不安に耐えるこの時期のアンケートでしたが、自由記述に「待ってました！」とあるようにこのような不安な時期こそ保護者からの声を聞くことは、学校にとって必要なことだったと思います。最も多かった「学習の遅れ」に対する不安に応えるため、郵送による課題の配布（2回）、教科とHRのGoogle Classroomでの連絡、教科の動画配信を実施してまいりましたが、休校中にオンライン授業の実施は実現できませんでした。分散登校時にオンライン授業を試行し、9月にオンライン授業を実施したところです。一気にICT化が加速し、教員研修、スマートフォンに頼るICT環境が課題として見えてきたところです。

また、抑圧された生活の中でも、学校に対して優しい思いやりの言葉をかけてくださる保護者の存在が大変励みになりました。ありがとうございました。

4 オンライン授業実施後の保護者アンケート結果

9月にオンライン授業を行ったクラスの生徒及び保護者対象にアンケートを取りました。86%

の生徒が学校のタブレットを使用しました。意欲的に取り組めたということに肯定的に回答した生徒が90%、保護者もほぼ同数でした。オンライン授業の満足度は、生徒は95%が肯定的回答をしていたのに対し、保護者の満足度は少し減って87%でした。生徒のみに聞いた質問でしたが、教室の授業と比較して「オンラインでも十分補える」と回答した生徒が半数いました。自由記述による保護者からの意見には「聞くだけでなく、質問や会話で指名もあり満足していたようです。」「課題のみよりは良かった」「オンラインなので聞き逃さないよう、より集中してやった。質問したいけどできないといった不便さは感じていると思うので、きちんと理解できたかどうか気に掛けてやってほしい」「教室での授業の方が、先生から指名されたりと緊張感があつて良かった様子でした。」という回答がありました。5月は「オンライン授業をどうするか」という課題が学校にありましたが、半年も経たないうちに、オンライン授業は当たり前でどう充実させるかということに課題が移っていることがわかりました。オンライン授業は保護者の目がより反映されるものであるということも実感できました。

5 おわりに

日々の生活の中では高校教育について、学校との保護者のかかわりについて考える機会がなかなかありませんでした。しかし、思わぬコロナ禍で当たり前だった子どもの高校生活や普段どおり家庭生活が送れなくなり、子どもたちにとって大事なものが何であるかが浮き彫りにされたように思います。

PTA活動においてもオンライン化が加速しました。今後のPTA活動にも活かしてまいります。

杉高のキャッチフレーズ「共に目指そう夢の実現」の「共に」には、生徒・教職員だけではなく、保護者も含まれます。学校が充実した教育活動を開拓するためには保護者の協力が不可欠です。子どもたちのために「共に夢の実現」を果たしていく協力的なPTA活動を推進していきます。